

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	兵庫県三田市を舞台とした定住人口・交流人口・関係人口の増加戦略	兵庫県 三田市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	デザイン思考×システム思考で持続可能な地域活性化を実現する		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	岸上研究室三田プロジェクトチーム		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3.	
メンバー数（公開）	9人		
代表者（公開）	廣津 鈴菜		
メンバー（公開）	青木 萌 園山 玲那 高岡 里江	津崎 恋 松浦 優果 村田 朱音	味地 泉実 宮武 莉子

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

《現状》

- ・兵庫県三田市の人口は年々緩やかに減少し続けており、人口流出を止めるのは難しい
- ・継続的な市民と行政と企業のつながりが薄く、持続可能な地域づくりができていない
- ・伝統工芸品である三田青磁はあまり知られておらず、作り手の後継者が不足している



《課題》

- ・『デザイン思考×システム思考』から生まれるアイデアで地域活性化の実現を目指す
- ・市民と行政と企業が三位一体となることで継続的かつ安定した「地域活性化事業」へ
- ・三田青磁の知名度を上げる為に人々のニーズに沿った環境整備とサービス提供を行う

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで…>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

① 三田青磁のホームページを作る

《ホームページの内容》

i 紹介

- ・三田青磁の特徴やその歴史と文化
- ・陶芸家伊藤瑞宝さんとその関連施設 (図 1)
- ・学生が運営している三田青磁関連の SNS (図 2)
- ・学生がこれまでの三田 PJ で活動してきたこと



(図 1) 三輪明神窯史跡園



(図 2) Instagram アカウント

ii 販売

- ・1 万円以上の芸術品は電話で購入を受け付ける
- ・1 万円未満の生活食器などはホームページのリンクから専用のオンラインストアで販売する



(図 3) 三田青磁を使うカフェ

iii 宣伝と募集

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

- ・ イベントやその参加についての告知をする
- ・ 三田青磁を使ってもらえる飲食店を募集（図3）

② 三田青磁デザインコンテストを開催する

《募集の内容》

募集要項	芸術品部門	生活食器部門
募集テーマ	三田青磁の特徴を活かした斬新なデザイン	親しみやすい使い勝手の良いデザイン
賞※1	最優秀賞2点（入賞者の中から各部門1点）、入賞10点（各部門5点）	
提出物	応募用紙と三田青磁デザインフォーマット	
参加資格	不問	
参加方法	提出物を指定の送付先まで郵送もしくは指定のメールアドレスまで送信	

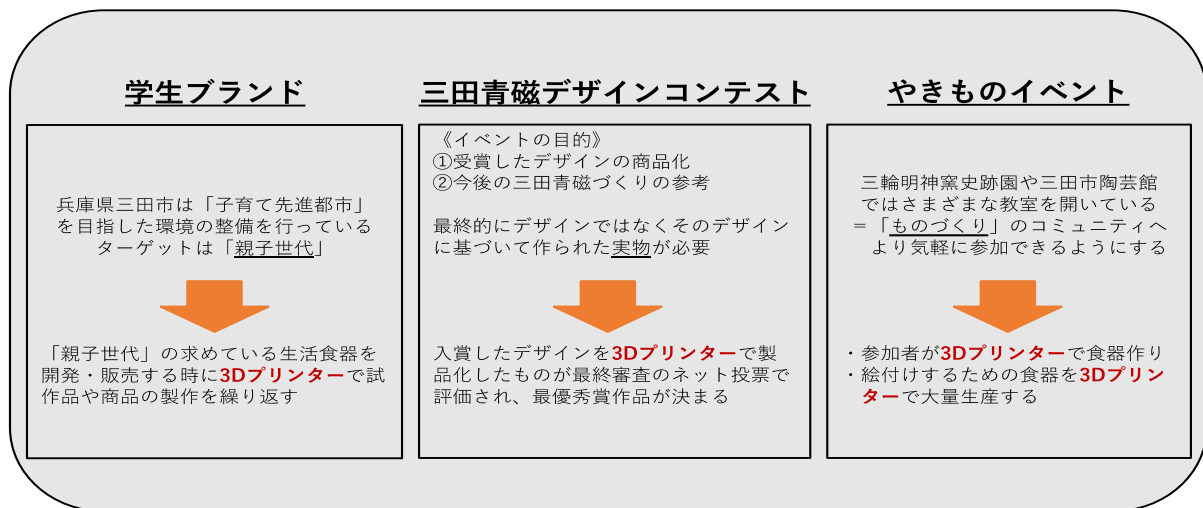
※1 最優秀賞者について、陶芸家・伊藤瑞宝さんが受賞者のデザインを製品化してプレゼントする

《審査方法》

入賞作品は陶芸家・伊藤先生と三田市役所の職員の方々と学生、最優秀賞作品はネット投票で決める

入賞作品の審査項目	芸術品部門	生活食器部門
三田青磁らしさ	40	10
デザイン性	30	10
創造性	30	40
機能性		40
合計（点）	100	

③ 3Dプリンターを活用する



学生が発案した『**三田青磁×デジタル技術**』が三田市のアピールポイントに三田青磁のホームページやInstagram・TwitterなどのSNSでその強みを発信する

--

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

◇三田市の暮らしの満足度（一人一つまでの回答）

【年代別】



満足度	回答数	割合 (%)
1 暮らしやすい	295	21.3
2 まあまあ暮らしやすい	898	64.5
3 あまり暮らしやすいくない	141	10.1
4 暮らしにくい	33	2.4
無回答	26	1.9
全体	1,393	

「暮らしやすい」「まあまあ暮らしやすい」を合わせた『暮らしやすい』と回答した人は、全体の **85.6%** を占めている。特に、10 歳代 (95.5%)、20 歳代 (92.7%) の満足度は高い。

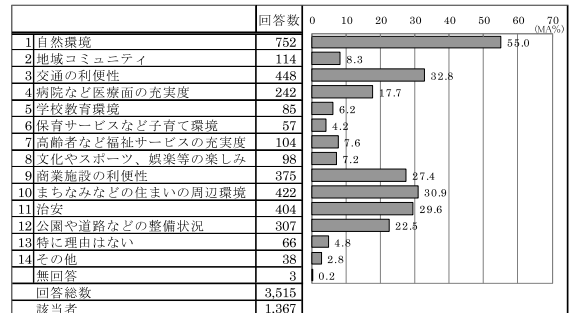
【参考資料】『令和元年度 三田市 市民意識調査 調査結果報告書』

◇暮らしやすさの主な理由（一人三つまでの回答）

【年代別】

『暮らしやすい』（暮らしやすい・まあまあ暮らしやすい）

年代	自然環境	地域コミュニティ	交通の利便性	病院など医療面の充実	学校教育環境	子育て環境	高齢者など福祉サービスの充実	文化やスポーツ、娯楽の楽しみ	商業施設の利便性	まちなみなどの住まわりの周辺環境	治安	公園や道路などの整備状況	特に理由はない	その他	無回答
10歳代【該当数=21】	38.1	0.0	47.6	9.5	9.5	4.8	0.0	14.3	28.6	28.6	47.6	14.3	4.8	0.0	0.0
20歳代【該当数=88】	58.0	5.7	30.7	9.1	9.1	5.7	0.0	2.3	25.0	38.6	52.3	21.6	4.5	0.0	0.0
30歳代【該当数=138】	57.2	5.1	28.3	9.4	11.6	12.3	0.7	5.8	29.0	38.4	47.1	31.2	2.2	0.7	0.0
40歳代【該当数=178】	59.0	8.4	19.7	9.6	14.0	5.6	2.8	2.8	19.7	35.4	37.1	28.7	1.7	2.2	0.0
50歳代【該当数=231】	68.4	9.1	25.5	9.1	4.8	3.0	3.9	7.4	29.9	32.9	33.3	22.5	5.2	2.2	0.0
60歳代【該当数=280】	67.5	6.8	27.1	13.2	1.4	1.8	5.4	6.8	26.4	36.8	26.8	24.6	7.1	1.8	0.0
70歳以上【該当数=243】	59.3	11.1	28.8	23.0	3.7	0.4	16.9	7.8	28.0	24.7	22.2	19.3	7.4	1.2	0.8



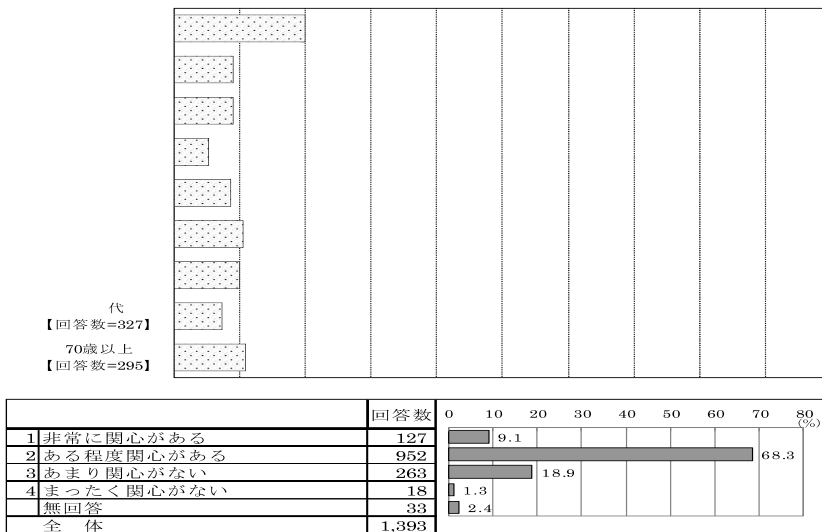
※「その他」の内容：就労・雇用、防災、気候 等

【参考資料】『令和元年度 三田市 市民意識調査 調査結果報告書』

三田市民の暮らしやすいと感じる一番の理由は「自然環境」であり、そのように回答した人 (55.0%) は全体の半分以上である。また、三田市は「子ども・子育て応援のまち」として体制を整えている。しかし、「保育サービスなど子育て環境」を評価している人 (4.2%) は最も少ない（「無回答」「その他」の回答を含まない）。地域活性化の観点からすると、暮らしやすさの理由に「地域コミュニティ」と回答した人 (8.3%) は少ないと言える。10 歳代に至っては 1 人もいない。年代が若いほど 地域との交流が浅い傾向にある。

◇三田市のまちづくりへの関心度（一人一つまでの回答）

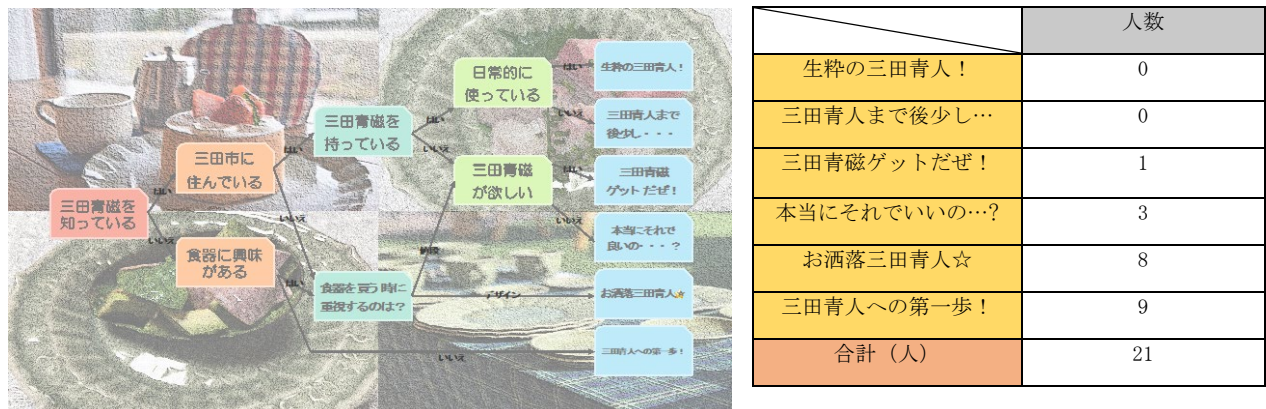
【年代別】



三田市のまちづくりに「非常に関心がある」「ある程度関心がある」を合わせた『**関心がある**』は、全体の**77.4%**を占めている。全体的にまちづくりへの関心度は高いと言える。年代別の割合について、40歳代(83.0%)が最も高いが、**10歳代(63.6%)**や**20歳代(66.6%)**は他の年代と比較して低い。

【参考資料】『令和元年度 三田市 市民意識調査 調査結果報告書』

◇三田青磁に対する認識調査（下記の図は実際に令和2年度の大学祭で使用）



三田市民で三田青磁を持っている人はいなかった。インタビュー回答者の中で最も多かった回答は「**食器自体に興味がない**」であった。また、食器に興味のある人はその**値段よりもデザイン**を重視していた。



全体的に三田市民は三田市での生活に満足しており、まちづくりにも積極的な姿勢をとっている。一方で**地域交流を通じた暮らしの豊かさ**を感じている人は少ない。このような現状は10歳代や20歳代のZ世代に多く、年代が若くなるほどその傾向が強くなっている。今日、三田市は「伊藤瑞宝やきもの講座」や図書館員による「おはなし会」など、地域行事を頻繁に行っている。しかし、三田市の**情報発信の頻度や工夫**が十分でないとその情報収集は困難である。また、三田市民は三田市の恵まれたプラットフォームである自然環境や交通環境でその地域生活に満足してしまう。そのため、私たちは、**地域参加のきっかけ**になる三田青磁のホームページを作るべきだと考えた。それに加えて『三田青磁に対する認識調査』で見えた「食器自体に興味がない」人々が**三田青磁に親近感**を持つような環境の整備やサービスの提供をしたい。三田青磁のホームページからの情報発信を通して、**人と人が繋がる**三田青磁デザインコンテストの開催や学生ブランド商品の販売を目指したい。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

《三田市の魅力発見&発信～「デザイン思考」でイノベーション～》

※出所：スタンフォード大学ハッソ・プラットナー・デザイン研究所

